

## 第5学年「てつがく創造活動」学習活動案

授業者 野萩 孝昌

2月21日（金） 1階多目的室 9:00～9:40

### 1 題材名 みがくの活動から

### 2 題材について

第5学年（**2**：みがく）の「てつがく創造活動」（協働のプロジェクト）は、4月の初めから、1年を通してどんなテーマにするか、みがく委員の8名と教員とで話し合いを重ね、来年に控えた『オリンピック』をテーマに学習活動をしていくことを全体に提案することが決まった。学年集会でみがく委員が提案をすると、聴いていた子どもたちから「オリンピックもいいけど…」という発言を皮切りに、「○○がしたい」、「△△へ行きたい」と次々に声をあげた。その後、学級や学年全体で何度も話し合いの時間をもった。

話し合いの中で「いくつかのジャンルを絞る」という提案があったが、「自分の興味に引かからないかもしれない。だったら、自分の取り組みたいことと内容が近い人とグループを組んで…」と、個々の「興味」を大切にしたいという子どもたちの想いが浮かび上がり、自分自身の「興味」とは何なのかを見つめなおした。同時に、「自学」（個のプロジェクト）とのちがいや、チームを組むよさなど、さまざまな問いが生まれる中で、じっくりと「てつがく」することも大切にしてきた。

以上のような時間を経て、自分たちの想いが似通った33のチームが編成された。調べ学習をしたり、実際に試したり、自分たちが探してきた見学先でプロの方にお話を伺ったりしてきた。このような経験から、自分たちが取り組めること（できること）について考え、それぞれが対話を通して、想いを調整したり折り合いをつけたりしながら、活動のゴールを決め、チームで学習活動を進めてきた。

全体発表会（1月末）を終えたとき、ある子どもがふと、「去年は“MUSASHI”っていうテーマがあったけど、今年のテーマって何だろう」と話した。今年度の第5学年の「てつがく創造活動」は、前述の「オリンピック」案が頓挫してから、それ以降「みがくの活動」といった呼称で取り組んできた。

活動が一区切りした今、「テーマを考える」という課題のもと、「ちがう」経験や活動をしてきた子どもたちの、それぞれの活動の意味や価値が重なり合う中で、埋め込まれた「おなじ」を探っていく。そこに挙がってきた概念やキーワードについて、具体的な活動の姿で話され、さらに深め合っていくことで、活動の内容だけでなく今年度の活動を通した“私たち”の姿を見つめ直し、これからの「てつがく創造活動」へつながっていくことを願う。

### 3 学習活動計画（4時間目／全9時間）

- |                               |             |
|-------------------------------|-------------|
| 第1次 「みがくの活動」を、自分たちで観点を決めてふり返る | ・・・3時間      |
| 第2次 「みがくの活動」のテーマを考える          | ・・・3時間 【本時】 |
| 第3次 これからの「てつがく創造活動」について考える    | ・・・3時間      |

### 4 本時の活動について

#### （1）本時のねらい

自分たちが取り組んできた「てつがく創造活動」のテーマを考えることを通して、活動の意味や価値を見つめ直す。

#### （2）予想される本時の展開

主な学習活動と子どもの姿	留意点
1 前時をふり返る。 2 課題を確認する。	・聴き合うことを大切に、対話のスピードを調整する。
今年度の「みがくの活動」のテーマを考えよう。	
3 課題について話し合う。	・「みがくの活動」全体について考えていく。